

土砂災害ハザードマップの目的

土砂災害ハザードマップは、梅雨期の集中豪雨や台風に伴う豪雨などにより、土石流やがけ崩れが発生した場合に被害を受けるおそれのある区域を土砂災害警戒区域等として示し、土砂災害が予想される場合や発生した場合に、住民のみなさんに避難などの適切な行動をとっていただくために作成したものです。

日頃からご家族や地域の方と話し合っておき、土砂災害による被害の軽減にお役立てください。



「土砂災害防止法」とは

土砂災害防止法（土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律）とは、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれがある区域を明らかにし、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地抑制、既存住宅移転促進などの対策を推進しようとするものです。

土砂災害のおそれがある区域

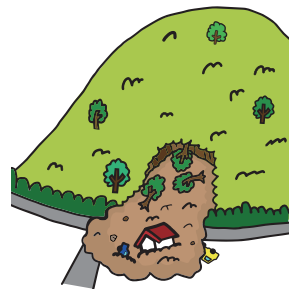
土砂災害警戒区域（イエローゾーン）	土砂災害が発生した場合に、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域で、土砂災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域
土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）	土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域

これらの区域は裏面の土砂災害ハザードマップや東京都のホームページで確認することができます。

土砂災害の種類と前兆現象

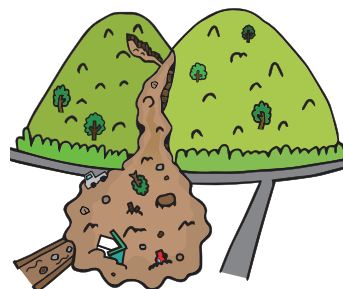
※立川市内の土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域は、すべて「がけ崩れ」に起因するものです。

土砂災害の種類



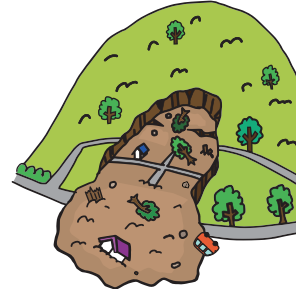
がけ崩れ
(急傾斜地の崩壊)

雨や地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象



土石流

山や川の石や土砂が、大雨などによって、水と一緒に一気に流れ出す現象



地すべり

雨が地下にしみ込み、斜面が大きなかたまりのまま下に向かって滑り出す現象

こんな時危険！

- がけから水が噴き出す
- がけからの水が濁る
- がけから音がする
- がけに亀裂が入る
- 小石がパラパラ落ちてくる

- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 川の水が急に濁ったり流木が流れてくる
- 山鳴りがする
- 立木の裂ける音が聞こえる
- 石のぶつかり合う音が聞こえる
- 泥臭い匂いがする

- 山腹や地面にひび割れや段差ができる
- 沢や井戸の水が濁る
- 斜面や地面から水が噴き出す
- 井戸や池の水かさが急に変わる
- 建物、電柱、樹木が傾く

ここに紹介した現象が、土砂災害発生の前兆現象の全てではなく、これらの現象が見られなくても土砂災害が発生する場合があります。

資料提供 NPO 法人土砂災害防止広報センター

土砂災害に関する情報の伝達・入手方法

最新の情報を確認しましょう

土砂災害等に関する最新の情報は、以下のような経路で伝達されます。常に最新の情報を入手しましょう。

立川市

立川見守りメール

■あらかじめ次のアドレス (re@kmel.jp) に空メールを送信し、返信されたメールに記載の URL から登録しておきましょう。

防災行政無線

■音声応答サービスで放送内容を聞き直すことができます。

☎523-5931、0120-131-119

■J:COM 防災情報端末は室内で防災無線の放送を聞くことができます。

立川市公式ホームページ

<https://www.city.tachikawa.lg.jp/>

スマートフォン 携帯電話

立川市公式ツイッター

@tachikawa_tokyo

国土交通省・気象庁・東京都

緊急速報メール

(エリアメール)

テレビ・ラジオ

各省庁ホームページ

データ放送 (d ボタン)

■テレビのリモコンの d ボタンを押すことでデータ放送を取得できます。

市民の皆さん

※東京都防災アプリ、ヤフー防災速報（ヤフー）、全国避難所ガイド（ファーストメディア）もあります。

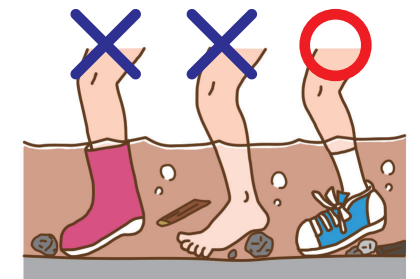
📍 避難行動の参考になる情報の入手方法などは、下記のマップから確認できます。

- 立川市防災マップ
 「天気や雨量、河川水位等の情報を得られるホームページ」
- 立川市洪水ハザードマップ
 「避難情報伝達経路」「警戒レベルをもとにとるべき行動」

避難に関するヒント

【避難時のポイント】

- 正確な情報収集** テレビやラジオで最新の気象情報や災害情報、避難情報等を入手しましょう。
- 動きやすい服装** 動きやすい服装、運動靴で避難しましょう。長靴は、浸水が深いと中に水がたまり動きにくくなります。
- 足もとに注意** 冠水した道を歩く際には、側溝やマンホール、水路に十分注意しましょう。
- 複数名での避難** できるだけ1人での避難は避けましょう。また、子どもから目を離さないようにしましょう。
- 車での避難は控えて** 水深が10 cmに達するとブレーキ性能が低下する場合があります。緊急車両の妨げにもなりますので、特別な場合を除いて自動車での避難はやめましょう。
- 避難所等の確認** 事前に洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ等を確認して、避難所等の場所を確認しておきましょう。



【非常持出品を用意しましょう】

- | | |
|---|--|
| <p>ラジオ AM・FM両方聞けるもの</p> <p>救急薬品 絆創膏、包帯、傷薬、解熱剤、胃腸薬、常備薬等</p> <p>非常食 飲料水、乾パンや缶詰など火を通さなくて食べられるもの</p> | <p>貴重品 現金、通帳、免許証、印鑑等</p> <p>懐中電灯 予備の電池も</p> <p>その他 レインコートや防寒着、軍手、ヘルメット、マスク、消毒液、体温計等</p> |
|---|--|

